大学･高専機能強化支援事業（支援２：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【大学　ハイレベル枠】実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F140110110592	改組内容	研究科等の設置･増員（ハイレベル枠）
大学名	九州大学	設置区分	国立	事業計画名	九州大学オープン型高度情報人材育成事業
学校種	大学	都道府県	福岡県		

１.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上欄：研究科等の設置等及びその準備（設置認可申請等）、下欄：教育環境の整備（施設整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
令和5年度	【情報系組織の入学定員】 システム情報科学府情報理工学専攻：入学定員 修士課程105名、博士課程 29名	【情報系組織の入学定員】 システム情報科学府情報理工学専攻：入学定員 修士課程105名、博士課程 29名	R5年度自己評価	【３】計画を十分に実施している。
	①　9月　情報系副専攻カリキュラム設計 ②　9月　他大学･高専への教育支援実施 ③　11月　システム情報科学府担当教員（任期無，教授・准教授相当）　5名選考 ④　11月　情報理工学専攻の指導、教育 ⑤　11月　講義室、研究室等改修工事（設計等を含む） （竣工予定日：R6年3月（研究室改修（１期）））	①　9月　情報系副専攻カリキュラム設計 ②　9月　他大学･高専への教育支援実施 ③　11月　システム情報科学府担当教員（任期無，教授・准教授相当）　5名選考 ④　11月　情報理工学専攻の指導、教育 ⑤　11月　講義室、研究室等改修工事（設計等を含む） （竣工予定日：R6年3月（研究室改修（１期）））		
		⑥　3月　令和5年度施設設備整備費増額　（R6.2.28承認）		
令和6年度	【情報系組織の入学定員】 システム情報科学府情報理工学専攻：入学定員 修士課程105名、博士課程 29名 6月　システム情報科学府情報理工学専攻（修士課程）入学定員増員に係る概算要求調書提出予定	【情報系組織の入学定員】 システム情報科学府情報理工学専攻：入学定員 修士課程105名、博士課程 29名 6月　システム情報科学府情報理工学専攻（修士課程）入学定員増員に係る概算要求調書提出	R6年度自己評価	【３】計画を十分に実施している。
	①　4月　情報系副専攻担当教員（任期有，准教授相当）　5名選考 ②　4月　システム情報科学府担当教員（任期有，助教相当）　5名選考 ③　4月　職域限定職員（事務）　２名選考 ④　4月　R7修士課程入学者向け募集要項準備(情報理工学専攻：105→135名) ⑤　4月　情報理工学専攻の指導、教育 ⑥　4月　情報系副専攻参加募集，既存講義については受講開始 ⑦　4月　情報系副専攻新規講義準備 ⑧　4月　他大学･高専への教育支援実施 ⑨　8月　R7修士課程入学者選考(情報理工学専攻：135名) ⑩　2月　講義室、研究室等改修工事完了 （竣工予定日：R7年2月（講義室改修）、R6年9月（研究室改修（２期）））	①4月　システム情報科学府担当教員（任期無，准教授相当）　2名着任　(R7.3.19承認) ②4月　R7修士課程入学者向け募集要項準備(情報理工学専攻：105→135名) ③4月　情報理工学専攻の指導、教育 ④4月　情報系副専攻参加募集,既存講義については受講開始 ⑤4月　情報系副専攻新規講義準備 ⑥4月　他大学･高専への教育支援実施 ⑦4月　職域限定職員（事務）　1名選考 (R7.3.19承認) ⑧4月　学術研究員　1名選考（R7.3.19承認） ⑨8月　職域限定職員（事務）　1名選考（R7.3.19承認） ⑩9月　R7修士課程入学者選考(情報理工学専攻：135名) (R7.3.19承認) ⑪9月 システム情報科学府担当教員（任期無，教授相当）　1名着任（R7.3.19承認） ⑫9月 システム情報科学府担当教員(任期有，助教相当）　2名選考（R7.3.19承認） ⑬10月　職域限定職員（事務）　1名選考（R7.3.19承認） ⑭11月　情報系副専攻担当教員（任期有，准教授相当）　1名選考　(R7.3.19承認) ⑮2月　情報系副専攻担当教員（任期有，准教授相当）　1名選考　(R7.3.19承認) ⑯2月　講義室、研究室等改修工事完了（竣工：R7年3月（講義室改修）、 R6年6月（研究室改修　２期））		
令和7年度	【情報系組織の入学定員】 システム情報科学府情報理工学専攻：入学定員 修士課程135名（30名増）、博士課程 29名 4月　システム情報科学府情報理工学専攻（修士課程）30人増員予定（入学定員135人）		○年度自己評価	リストから選択してください。
	①　4月　修士課程情報理工学専攻135名入学 ②　4月　情報理工学専攻の指導、教育 ③　4月　情報系副専攻全面実施 ④　4月　他大学･高専への教育支援実施 ⑤　8月　R8修士課程入学者選考(情報理工学専攻：135名)			
令和8年度	【情報系組織の入学定員】 システム情報科学府情報理工学専攻：入学定員 修士課程135名、博士課程 29名 6月　システム情報科学府情報理工学専攻（博士課程）入学定員増員に係る概算要求調書提出予定		○年度自己評価	リストから選択してください。
	①　4月　修士課程情報理工学専攻135名入学(2学年分で270名に) ②　4月　情報理工学専攻の指導、教育 ③　4月　情報系副専攻実施 ④　4月　他大学･高専への教育支援実施 ⑤　8月　R9修士課程入学者選考(情報理工学専攻：135名) ⑥10月　R9博士課程入学者向け募集要項準備(情報理工学専攻：29→34名) ⑦　2月　R9博士課程入学者選考(情報理工学専攻：34名)			
令和9年度	【情報系組織の入学定員】 システム情報科学府情報理工学専攻：入学定員 修士課程135名、博士課程 34名（5名増） 4月　システム情報科学府情報理工学専攻（博士課程）5人増員予定（入学定員34人）		○年度自己評価	リストから選択してください。
	①　4月　修士課程情報理工学専攻135名入学，博士課程情報理工学専攻34名入学 ②　4月　情報理工学専攻の指導、教育 ③　4月　情報系副専攻実施 ④　4月　他大学･高専への教育支援実施 ⑤　8月　R10修士課程入学者選考(情報理工学専攻：135名) ⑥　2月　R10博士課程入学者選考(情報理工学専攻：34名) ⑦　3月　中間自己点検評価（定員充足状況，副専攻受講者状況，他大学･高専への教育支援状況）			
令和10年度	【情報系組織の入学定員】 システム情報科学府情報理工学専攻：入学定員 修士課程135名、博士課程 34名		○年度自己評価	リストから選択してください。
	①　4月　修士課程情報理工学専攻135名入学，博士課程情報理工学専攻34名入学 ②　4月　情報理工学専攻の指導、教育 ③　4月　情報系副専攻実施 ④　4月　他大学･高専への教育支援実施 ⑤　8月　R11修士課程入学者選考(情報理工学専攻：135名) ⑥　2月　R11博士課程入学者選考(情報理工学専攻：34名)			
令和11年度	【情報系組織の入学定員】 システム情報科学府情報理工学専攻：入学定員 修士課程135名、博士課程 34名		○年度自己評価	リストから選択してください。
	①　4月　修士課程情報理工学専攻135名入学，博士課程情報理工学専攻34名入学 ②　4月　情報理工学専攻の指導、教育 ③　4月　情報系副専攻実施 ④　4月　他大学･高専への教育支援実施 ⑤　8月　R12修士課程入学者選考(情報理工学専攻：135名) ⑥　2月　R12博士課程入学者選考(情報理工学専攻：34名)			
令和12年度	【情報系組織の入学定員】 システム情報科学府情報理工学専攻：入学定員 修士課程135名、博士課程 34名		○年度自己評価	リストから選択してください。
	①　4月　修士課程情報理工学専攻135名入学，博士課程情報理工学専攻34名入学 ②　4月　情報理工学専攻の指導、教育 ③　4月　情報系副専攻実施 ④　4月　他大学･高専への教育支援実施 ⑤　8月　R13修士課程入学者選考(情報理工学専攻：135名) ⑥　2月　R13博士課程入学者選考(情報理工学専攻：34名)			
令和13年度	【情報系組織の入学定員】 システム情報科学府情報理工学専攻：入学定員 修士課程135名、博士課程 34名		○年度自己評価	リストから選択してください。
	①　4月　修士課程情報理工学専攻135名入学，博士課程情報理工学専攻34名入学 ②　4月　情報理工学専攻の指導、教育 ③　4月　情報系副専攻実施 ④　4月　他大学･高専への教育支援実施 ⑤　8月　R14修士課程入学者選考(情報理工学専攻：135名) ⑥　2月　R14博士課程入学者選考(情報理工学専攻：34名)			
令和14年度	【情報系組織の入学定員】 システム情報科学府情報理工学専攻：入学定員 修士課程135名、博士課程 34名		○年度自己評価	リストから選択してください。
	①　4月　修士課程情報理工学専攻135名入学，博士課程情報理工学専攻34名入学 ②　4月　情報理工学専攻の指導、教育 ③　4月　情報系副専攻実施 ④　4月　他大学･高専への教育支援実施 ⑤　8月　R15修士課程入学者選考(情報理工学専攻：135名) ⑥　2月　R15博士課程入学者選考(情報理工学専攻：34名) ⑦　3月　最終自己点検評価			

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	九州大学

２.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

ⅰ） 学生募集停止中の大学

該当無し	■ チェック

ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	■ チェック

ⅲ） 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	■ チェック

ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	■ チェック

ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	■ チェック

３.申請要件の取組状況

令和5年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。	確認を受けている	■ チェック
		対象に該当しない	□ チェック
②	志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。	計画通りに進んでいる	■ チェック
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）	計画通りに進んでいる	■ チェック
④	特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。	計画通りに進んでいる	■ チェック
⑤	計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。	計画通りに進んでいる	■ チェック
⑥	特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）を含む。）（以下「研究科等の設置等」という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。	計画通りに進んでいる	■ チェック
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。	計画通りに進んでいる	■ チェック
⑧	教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例枠）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）	既設の情報系分野に係る研究科等を有する	■ チェック
⑨	機構による事業計画の選定があった日から２年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。	計画通りに進んでいる	■ チェック
⑩	計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）５名以上の入学定員の増員を行う計画であること。	計画通りに進んでいる	■ チェック
⑪	国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第５期中期目標期間終了時までに他学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。	計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	■ チェック
⑫	教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。	計画通りに進んでいる	■ チェック
⑬	文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。	認定を受けている、又は対象に該当しない	■ チェック
		認定を受ける計画が進んでいる	□ チェック
⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない	□ チェック

国際卓越研究大学として認定は受けておらず、申請については検討中である。

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	九州大学

４－１.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れ計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学では，指定国立大学採択に伴いVISION2030を策定した．その一つは「社会共創」であり，自治体や企業等との全学的な連携拡充を謳っている．一方，情報教育の場においては，すでに多方面において産学官連携教育を実施しており，本事業でも継続する．例えば，①データサイエンス・AI教育については，ADS育成室や数理・データサイエンス教育研究センターにおいて九州経済産業局やふくおかアイストをリエゾンとして企業連携教育を実施もしくは計画，②セキュリティー教育については，EnPiT-Proにおいて講義担当など様々な形で実務家教員がダイレクトに関与，③半導体教育については，新設の価値創造型半導体人材育成センターにおいて実務家教員による講義を計画，が挙げられる．これら以外にも，④大学院（修士・博士共に）で企業インターンシップを単位化，⑤企業データ分析講座（電通，トライアル），⑥自治体や企業等との連携が多い卓越大学院「マス・フォア・イノベーション連係学府」への参画，⑦共同研究（シス情全体でR4年度は82件）と受託研究（同68件）を通した実践的教育，を実施している．	①データサイエンス・AI教育について，ADS育成室は，文部科学省の支援終了後も自助努力により継続しており，社会人向けDS講義を開講し，リスキリングの機会を与える．次に、数理・データサイエンス教育研究センターにおいては、九州経済産業局との連携を行っており，その成果は様々な企業10社による「社会のデータ・AI等活用事例動画」という動画教材に結実している．②EnPiT-Proにおけるセキュリティー教育では，講義担当など様々な形で実務家教員が引き続き関与している。③半導体教育については，R5年度中に設立された価値創造型半導体人材育成センターにおいて実務家教員による講義（半導体技術マーケティング特論など）を複数開始した．また，世界トップレベルの半導体企業TSMCとの連携協定を締結した（R6.4）．④⑤⑥については継続．⑦共同研究（シス情全体でR5年度は75件であったが，総額はR4年度より10百万円増加した．）と受託研究（シス情全体で74件）を通した実践的教育を実施しており，堅調である．	

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
システム情報科学研究院では，初等中等教育との連携も各種実施しており，本事業でも推進する．最も歴史あるものが「中学生の科学実験教室」である．KDDI財団のご支援の下で20年以上実施しており，毎年100人の定員がすぐに埋まる人気イベントとなっている．高校生については，SSH（スーパーサイエンスハイルクール）事業等での出前講義に加え，H30からは未来創成科学者育成プロジェクト（QFC-SP）を開始した．本学の講義を受講した後，個別指導のもとで各種研究を実施するイベントであり，本研究院の複数教員も受講生の受け入れを行っている．R4は志願者350名のうち72名を採択，そこからの個別指導採択者28名のうち3名が本研究院にて研究指導を受けた． 高校における情報必修化については高大連携での議論を開始しており，現時点では本学のラーニングアナリティクスセンターを介して，近隣公立高校7-8校との情報交換を行っている．今後本事業では，本学の未来人材育成機構(R5発足)での議論や，数理・データサイエンス教育センターが拠点校を務める九州・沖縄ブロックの大学・高専の議論なども通じて，連携の実効化を図る．	「中学生の科学実験教室」についてはR5年度も予定通り実施し，87名（男子53名，女子34名）が参加した．高校生については，出前講義等の個別対応，および未来創成科学者育成プロジェクト（QFC-SP）を実施した．QFC-SPについて，R5年度は103名を採択し，このうち31名がエネルギーと情報」コースに所属した．なお，QFC-SPについては，R5年度に発足した本部直轄の「未来人材育成機構」の高大接続改革部門で掌握されることになった．高校における情報必修化の状況については，数理・データサイエンス教育センターが拠点校を務める「九州・沖縄ブロック」での会議において，福岡県教育庁教育振興部高校教育課指導明指導主事にご講演いただき，情報Ⅰ/Ⅱに関する実施状況をご教授いただいた．	

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
以下の取り組みを継続する．まず女子学生確保について，①女子高生を対象とした研究体験プログラム（QURIESプログラム，上記QFC-SPとは別で，シス情では毎年4名程度の生徒を受け入れ），②リケジョ講演会，③Voice of Women in Engineeringを毎年発行・配布，など高校時代からの誘導を図る．社会人学生確保については，④ADS育成室における社会人向け「データサイエンスプロ短期集中コース」（R5からはオンデマンド配信を予定），⑤EnPiT−Proでの社会人向けリスキリング講座，⑥社会人学生の参画を容易にするための「長期履修制度」（授業料はそのままで通常よりも在学期間を延長できる制度）を活用する．さらに留学生確保については，⑦大学院グローバルコース（英語による講義・指導で修了可能），⑧海外オフィス（欧米アジア計7か国）＆ブランチオフィス（アジア＆トルコ計4か国）での勧誘活動，⑨リクルーティング活動（オンラインウエビナー or 現地で開催．他大学との合同を含め，R4実績で32回開催，アジア・アフリカが主たる対象），などを活用する．	①女子高生を対象とした研究体験プログラム（QURIESプログラム）では，全学で24名を受け入れ，そのうち2名がシステム情報科学府の研究室に配属されプログラムを受講した．なお，受け入れ表明をしたのは3研究室であった．②リケジョ講演会は，R5.8のオープンキャンパス時に「理系女子のためのキャリアパス講演会」というタイトルで実施し，株式会社日立製作所と株式会社オリエンタルコンサルタンツから講師を招きご講演いただいた．③Voice of Women in Engineeringは，2023年度分を発行した．この他，旧帝大＋東工大８大学の情報系研究科等共同で中高生向けイベント「情報学for all by all」を実施し，本学でも17名（うち女子中高生15名）を対象にラボツアーや女子学生等との懇談を行った．R6年度も実施する予定である．社会人学生確保の④⑤⑥は継続実施（④⑤については4-1-①も参照のこと）．留学生確保に関する⑦⑧⑨も継続実施中．⑦について，R5年度の実績は8名であった．（情報理工：3名，電気電子：5名，いずれも修士学生）． なお，システム情報科学府の情報理工学専攻修士学生については，R6年度入学生117名のうち47名が留学生であり，十分に確保できていると言える．実際，冬季に行う留学生向け入試だけで130名が志願しており，これだけで，（夏季のメイン入試合格者を含めた）定員105名を超える．	

④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
R5年3月，本学は「九州・沖縄地区オープンユニバーシティ（KOOU）」を提唱，九州沖縄の11国立大学の間で研究力向上のための連携推進を決定し，本事業期間には教育に関する連携強化も図る．加えて，本学の数理・データサイエンス教育研究センターでは，九州沖縄ブロックの拠点校として国公立に多数の私学・高専も加えたデータサイエンスAI関連教育連携体制（39校）をすでに築いている．またADS育成室や価値創造型半導体人材育成センターでは，熊本大・九工大と合同での教育プログラムを構築している．半導体については，台湾の工業技術研究院と陽明交通大に本学大学院生を派遣するプログラムをR5より実施予定である． システム情報科学府の博士課程では，国際インターンシップを単位化しており，渡航助成金を支給してその活性化を図っている．同制度の実施開始以来，毎年平均4人の博士学生が助成金を得て，海外トップレベル大学にてインターンを実施している．こうした国際連携教育は，全学レベルの交流協定校に加え，同学府独自の交流協定校（17カ国，32大学）によっても支えられている．	KOOUについては，台湾の大学群学術プラットフォームである「The University Academic Alliance in Taiwan（UAAT）」と国際的な連携協力に関する覚書を締結(R6.4)するなど，その動きが本格化しつつある．本学の数理・データサイエンス教育研究センターが拠点を務める「数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム 九州沖縄ブロック」の参加校は，R4年度末時点の39校から51校に増えており，4年制大学だけに絞れば九州沖縄の全80大学のほぼ半分の39大学が参画している．これら参加校とはR5年度中にも2回の対面会議を開催し，連携関係を深めた．ADS育成室については①にて既に述べたとおりの状況である．価値創造型半導体人材育成センターでは，R5年度中の2ヶ月間，博士2年生1名を台湾の半導体設計会社であるCMSCにインターンシップ生として送り出した．システム情報科学府の博士学生に対する渡航助成金について，R5年度は申請がなかった．（論文発表等のアクティビティが下がったという状況にはないので，各研究室の予算で足りたものと考えられる．実際，情報理工学専攻のR5年度の海外インターンシップ実施数は3件（中国、シンガポール、アメリカ）であった．）	

４－２.審査要項における確認項目（３つの取組、６つの観点）の計画及び取組状況

令和5年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れ申請時の計画を記載してください（３つの取組のみ計画の記載は不要です）。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

＜３つの取組＞

- チェック ［１］海外のトップ大学と連携するなどして、デジタル分野の第一人者として国際的に活躍できる世界トップレベルの研究者や技術者の輩出を図る取組となっているか。
- チェック ［２］デジタル人材の不足を解消するために、自大学の教育の高度化や定員の大幅な拡充を図るのみならず、他の大学・高等専門学校の学生も広く参加可能な優れた情報教育プログラムを横展開させる取組となっているか。
- チェック ［３］地域や国の産業戦略とも連携しながら、企業等の具体的な実務課題の解決に取組むことで企業等のニーズを踏まえた高度情報専門人材を継続的に多数輩出することにより、地域や我が国の産業振興に大きく資する取組となっているか。

取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
取組[1]については，研究大学として、世界トップレベルの研究に携わった大学院生を輩出している．実際，SciVal等で論文数（全体論文数，トップ10%引用論文数など。これら論文の大半は大学院生の研究成果に関する）を調査すればわかるように，情報系分野における研究力は近隣の他大学を大きく凌駕している．なお，情報理工学専攻の担当教員には，若手研究者を積極的に採用している．その結果，同専攻のカリキュラムにより，最新の情報学が学べるようになっている． 取組[2]については，自大学において「あらゆる学術分野において，情報系の素養を持った専門家を輩出する」ことを目的とした「情報系副専攻」をR7年度から開始するために，そのカリキュラム設計を終了し，また担当する教員配置についても，コア科目担当者については R5年度中に完了し，残り（分野別応用科目担当者）をR6年度中に完了させることになっている（取組[3]の説明でも補足）．他大学への横展開（オープン化）については，本学も重要視しているところであり，以下，4-2-⑥にて述べるように，順調に進捗している． 取組[3]については，以下4-2-②③⑤で述べるように，共同研究，実務家教員派遣，インターンシップなど，企業とは様々なレベルで連携している．また，上記「情報系副専攻」のゴールは，まさに「企業等のニーズを踏まえた高度情報専門人材を継続的に多数輩出」である．情報系理工学専攻だけで全産業分野からの人材ニーズを賄うことが現実的でない以上，「あらゆる学術分野において，情報系の素養を持った専門家を輩出する」ことこそが最適なアプローチであると考えている．こうした全分野における情報系教育の横展開は，本学においてもすでに様々な実績があり，今回の「情報系副専攻」は，ある意味それらの集大成的なものとも言える．その進捗に関して，特段の懸念事項はない（本部執行部も学内各部局も極めて前向きに捉えている．）	

＜６つの観点＞

① 大学院博士課程を含め、情報系分野の大学院において、大規模な定員増を実施する計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本事業では，九州大学大学院システム情報科学府情報理工学専攻の博士前期課程（以下，修士課程）を30名増員し，博士後期課程（以下，博士課程）を5名増員する．修士課程については，もともと85名定員であったものを，R3年度改組の際に20名増員して105名定員としたばかりであり，これを今回30名増員することで，135名定員とすることになる．すなわち，修士定員をわずか5年間で1.6倍にする計画となっており，極めて大規模な定員増であるといえる．博士課程についても，現在の定員29名の約12%増となる34名とする． システム情報科学府情報理工学専攻は，情報アーキテクチャ・セキュリティコース，データサイエンスコース，AI・ロボティクスコースで構成され，情報学の基礎理論から応用まで学ぶことができる．（なおコースは修了時に決定すればよく，履修時にはコースにとらわれない幅広い学びが可能である．）さらに同学府内の電気電子工学専攻の講義も履修でき，米国MIT同様，ソフトとハードの両面を学ぶことができる．	九州大学大学院システム情報科学府情報理工学専攻の修士課程を30名増員する計画については，R5年度中に学内の承認及び文部科学省との相談は終わっており，R7年度概算要求の準備中である．これが認められることが確実になった時点で新定員（135名）での入試（一般入試）を実施する予定である．なお，その定員の一部は，R7.1に予定されている留学生向け入試合格者に充てるため，一般入試で135名分すべてを充足することはない．カリキュラムについて，R5年度中に大きな変更はなかった．なお，博士課程の定員増（29名→34名）は，R9年度であるため，R8年度中に概算要求する予定である．	

② 広く企業や自治体等と連携し、企業や自治体等が求める人材ニーズに的確に応える計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学が指定国立大学採択に伴い今後の方向性を制定したVISION2030の8項目のうちの1つは「社会共創」である．そこでは「知の拠点として地域社会やグローバル社会と共生・共創し，研究教育活動を通して社会の持続可能な発展と人々のウエルビーイングの向上に貢献する」として自治体や企業等との連携拡充を謳っている．これらに先駆け，情報教育の場においては，データサイエンス・AI教育，セキュリティー教育，半導体教育など，多方面において産学官連携教育を実施しており，本事業でも継続する． 博士学生については，R5年4月に「未来人材育成機構」を発足，情報系も含めた全学博士に対して，実務家教員も活用しつつ様々なキャリア支援を行う予定である．これに加え，システム情報科学府では独自に博士のメンター教員（企業経験者）を配置して，キャリア支援を行っている．	本様式4-1-①で述べた通り，データサイエンス・AI教育，セキュリティー教育，半導体教育など，情報学関連について多方面の産学官連携教育を実施した．エキスパート人材として輩出ニーズが高い「数理・DS・AI」博士学生については，R5年度中も手厚い経済的支援を行っている．なお，本学は「JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム（JST K-SPRING）」および「文部科学省 科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」にR3年度に採択されており，これら事業は数理・DS・AI人材の育成を後押しでき，特に後者では情報系博士学生を中心に支援できた．両事業はR6年度より新たにJST-SPRINGという形で統合されることになったが，これについても本学は採択されている（新たな事業名称はK2-SPRING）．また，AI系に特化した博士支援制度「次世代AI人材育成プログラム(JST-BOOST)」にも応募し，R6年4月1日に採択された．	

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	九州大学

③　連携企業等からの寄附等、外部資金の持続的な獲得が見込める計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
上記VISION2030には，8項目の1つとして「財務基盤」の強化も謳われている．全学において，多様かつ安定的な財源確保と運用を行うことの宣言であり，具体的には「組織対応型連携の強化による外部資金の拡大」「大学発ベンチャーの創出加速による知財収入等の拡大」「国内外の同窓会組織など，多様なステークホルダーとの連携強化による寄附金収入の拡大」を掲げている． 情報理工学専攻を担当するシステム情報科学研究院の教員（教授44名，准教授36名，助教39名）も，外部資金獲得には非常に積極的である．例えば，R4とR5の2年間だけで，3件の科研費基盤S代表課題が採択されている．（現教授の約16%にあたる7名が基盤S代表経験を持つ．） 科研費全体（継続課題含む）では，R4の採択が93件（直接経費391百万円）に上っている．他にもムーンショットやCREST代表課題に加えて，若手向け外部的資金JST-ACT-I/ACT-Xの情報系4領域においての採択実績が多数ある．また，R4の共同研究契約は82件，受託研究契約68件に上る．	R5.7に，財務基盤の一層の強化，寄附金をはじめとする外部資金獲得のための機能の飛躍的な強化，各部署の渉外担当者による共通的な意識・モチベーション（“稼ぐ意識”）の醸成を目的として，九州大学財務戦略室が設置された．またシステム情報科学研究院においても，「価値創造型半導体スペシャリスト育成プロジェクト」と称した使途特定プロジェクト寄附金が設置(R5.7)されるなど，積極的な動きがあった．他にも，昨今AI事業に力を入れている東京エレクトロン社からの23百万円の寄附金などもある． システム情報科学研究院の科研費採択状況も堅調である．科研費基盤S代表課題については，R5年度中に1件新規採択(情報系)があり，現時点で4件が実施されている．科研費全体（継続課題含む）では，R5年度の採択が88件となっている．R4年度の93件に比べて微減しているものの，直接経費でみれば391百万円から408百万と増加している．他にもムーンショットやCREST. ERATOに加えて，若手向け競争的資金JST-ACT-I/ACT-XやNICTのBeyond 5G (6G)に新規で採択されるなど様々な情報系の研究領域において活躍した．また，R5年度の共同研究契約は75件（うち組織連携型12件），受託研究契約74件に上る．なお，組織連携型の12件のうち10件は情報系企業である．（金額で言えば，共同研究費の総額23百万円のうち，17百万円分が情報系企業からのものであった.）	

④　高度情報専門人材を育成する大学・高等専門学校において質の高い教育を行う教員を養成・輩出する取組（当該分野の大学教員等の育成）を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
過去5年分の統計によれば，情報系の日本人博士修了生のうち，全体の37%（社会人博士を除けば全体の約50%）が大学等アカデミアに就職している（残りは企業就職）．このように本学では着実に情報学エキスパートを輩出してきた．本事業による情報系大学院増員により，アカデミア人材輩出機能がさらに強化される． 本計画では，情報系副専攻を開設し，文系・理系を問わずすべての学生に対する情報系教育を強化することで，こうした情報学の素養を持った人材を全学術分野において輩出する．情報系副専攻は学部を基本とするが，リスキリングを希望する大学院生の参加も大歓迎する．彼らは自身の研究分野に情報系技術を活かせるエキスパートになるため，修了後に自分野教員に着任することで各分野において情報人材育成に寄与することになる．本学では「オープンサイエンス & オープンエデュケーション with オープンマインド」のスローガンの下，6年前より数理・データサイエンス教育研究センターを中心として，全学体制でデータサイエンス・AI教育に当たってきた．この全学協力体制や教育ノウハウを，今回の情報系副専攻においても十分に活かす．	R5年度末の情報理工学専攻博士課程修了生17名(単位修得退学後に学位記が授与された3名を除く)のうち，11名がアカデミアに就職している．残り（社会人博士も含む）は企業研究所等に所属しており，適度なバランスであると言える．また，R5年度末での同専攻修士課程修了生99名のうち，11名が博士課程へ進学（内部進学）しており，今後の教員候補生になると期待される． 全学全分野において情報系の素養を持った博士学生を輩出するための「情報系副専攻」については，R7年度からの本格稼働に向けて，R5年度中に様々な準備を行った．具体的には，学内において，文理を含む多くの分野の教員からなる「情報系副専攻WG」を立ち上げて，副専攻としてのカリキュラム策定を行った．また，情報系副専攻担当（コア科目担当．具体的には，応用プログラミング演習担当×3，コンピュータシステムリテラシー科目担当×1．科目名は仮）教員を4名，システム情報科学研究院にて雇用(教授2名, 准教授2名)した．R６年度中には，特プロ准教授を5名（分野別応用科目担当，具体的には，生命情報学担当，物理情報学担当，化学情報学担当，人文情報学担当，社会情報学担当，各１名．科目名は仮）を雇用する予定である．	

⑤　連携企業等から実務経験のある人材の大学への派遣、学生が連携企業等においてインターンシップを実施する体制の構築、連携企業等との共同研究実施が見込める計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
情報理工学専攻においては，産業界からの実務家教員による講義が，すでに複数実施されている．具体的には，毎年10名を超える実務家教員が講義を担当し，ソフト・ハード両面における産業動向に関する最新状況を教授している．またこれとは別に，九州経済産業局やふくおかアイスト（福岡県産業・科学技術振興財団）など，産業界とのリエゾンと連携した教育事業を行っており，例えばADS(Advanced Data Scientist)育成室では，様々な企業の実データを用いたエキスパート教育を展開している．なお，システム情報科学研究院の教授陣には元々企業に所属していた者が多い．特に情報知能工学部門では，21名の教授・准教授のうち半数の11名が企業出身者であり，デジタル技術の社会応用も踏まえた教育研究を実施している． 本計画では，こうした産業界との連携をさらに強化する予定である．例えばデータサイエンス・AI教育については，現在九州経済産業局との協力を深めており，まずは「企業からの教材提供」といった連携を予定している．また，今年度から強化を図る半導体教育においても，世界的な激流の中にある半導体産業の動向を学べる「半導体技術マーケティング特論」を実務家教員が担当する予定である．博士のインターンシップについても前述の未来人材育成機構による推進や，半導体企業への国際インターンシップ(R5.5プレスリリース済)も予定されている．	4-1-①で回答したように，EnPiT-Proにおけるセキュリティー教育や，価値創造型半導体人材育成センターにおける半導体教育において，実務家教員による講義が積極的に導入されている．また，数理・データサイエンス教育研究センターにおいては、九州経済産業局と「費用対効果・持続性の高い産学連携教育のありかた」について議論の上,企業10社による動画教材を開発した（この教材は，本学のみならず，全国的にも利用いただけるようオープン化する予定である）． 学生のインターンシップについて，2週間以上実施するものについては，博士・修士ともに単位化（2単位）している．なお，博士学生については，4週間以上の場合は「長期インターンシップ」として4単位の取得が可能である．半導体関係のインターンシップも計画通り実施を開始している．なお，昨今の就活前倒し（特に情報系は修士1年進学後直後に就活を開始）の傾向もあり，教員側の主導がなくても，多くの学生がインターンシップに参加している． 共同研究については，4-1-①で回答した通り堅調である．R6年4月，九州大学オープンイノベーションプラットフォーム（OIP）が「九大OIP株式会社」として独立した（九州大学の100%子会社）．同社により，これまで以上に産学連携が強化されることが期待されている． 情報理工学専攻担当の教授・准教授のうち，文部科学省が定義する実務家教員「専攻分野における概ね5年以上の実務の経験を有し」に従って，改めて「企業経験教員」をカウントしたところ，11名（全体の1/4）であった．（5年未満の民間企業在職者を加えれば，さらに8名となり，半数弱が企業経験者となる．）	

⑥　他大学等の学生も参加できる情報教育プログラムの実施や教材作成等を含む質の高い取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学では「情報系教育のオープン化」を推進しており，本事業でもそれを強化する．前述の通り，本学のデータサイエンス・AI教材についてはSNSでも度々話題になるほどで，自由にダウンロードできるPDF形式の資料だけでなく，改変可能なパワーポイント形式の資料も無償配布している．こうした教材のオープン化については今後も積極的に推進する．データサイエンス講義については，録画済み動画だけでなく，他大学へのオンライン講義配信も検討する．また，データサイエンス(ADS育成室)，サイバーセキュリティ(EnPiT Pro)，半導体(価値創造型半導体人材育成センター，R5発足)で実施している大学間連携教育についても継続的に推進するとともに，それら教材もできるかぎり公開することで，情報学教育のオープン化・共有化を実現していく計画となっている．	教材のオープン化については，引き続き積極的に進めており，35単元のスライド教材に関するPDFについては常時無許可でダウンロード可能，自由に編集・改変可能なパワーポイントファイルについてはメールにて問い合わせいただければ無償配布としている．後者については，R6.5時点で152の大学・企業等に配布している．また，既述の通り，九州経済産業局と協力して，10編のDS・AI実用例動画についても公開した． データサイエンス(ADS育成室)，サイバーセキュリティ(EnPiT Pro)，半導体(価値創造型半導体人材育成センター，R5発足)で実施している大学間連携教育についても継続的に推進している． なお，R7より本格開始する情報系副専攻科目の講義資料の一部オープン化についても，今後検討を開始する．	

５－１.大学院（修士課程、博士課程）における学生の研究活動実績

令和5年度 大学院在籍学生の論文の採択・受賞状況や各コンペティション等の受賞状況、筆頭著者論文数等、学生の研究活動実績を記載してください。

令和5年度に，情報理工学担当教員の原著論文(九大の業績データベース調べ，査読付き国際会議論文を含む)の総数は196編であった．分野によっては著者がアルファベット順であったり，また在学時に執筆して修了後に発行された論文などもあるため，学生が筆頭著者である数値を出すのは困難であるが，近似的には3/4以上は本学学生の業績であると見られる．すなわち，学生に拠る原著論文は1年あたり150編程度出ており，大学院の総定員（修士105名×2学年＋博士29名×3学年＝297名）から単純換算すれば，およそ2名に1名は原著論文を執筆していることになる．これら原著論文の中にはCVPR (Core ranking A*)，ICCV (同A*)， ACM-MM(同A*)，ICRA(同A*)，ECAI(同A)，ECML-PKDD(同A)，CIKM(同A)，IROS(同A)，LAK(同A)，GECCO(同A)，MICCAI(同A)，BMVC(同A)，ICDAR(同A)など，いわゆる情報系のトップカンファレンスも多く含まれている．受賞も，R5年度修了の情報理工学専攻の大学院生だけで46件の受賞があり，Int. Conf. Document Analysis Systems (DAS, CORE ranking B)のBest Student Paper Awardのような国際賞や，IEEE Computer Society Japan Chapter FOSE Young Researcher Award (FOSE 2023)なども含まれている．

５－２.大学院（修士課程、博士課程）における学生の卒業後の進路状況

令和5年度 大学院卒業者の卒業後の進路状況を記載してください。就職先企業名や研究機関名、業種、職種、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。

4-2-④でも述べた通り，R5年度末の情報理工学専攻「博士課程」修了生17名のうち，11名がアカデミアに就職している．残りは企業研究所（サイバーエージェント，日本電気，三菱総研）などに就職している．
R5年度末での同専攻「修士課程」修了生99名のうち，11名が博士後期課程へ進学（内部進学）している．企業就職者の産業種別内訳（※）は，「情報通信業」が約55%であり，次いで「その他の専門・技術サービス業」が約10%，「電気・情報通信機械器具製造業」「輸送用機械器具製造業」「電子部品・デバイス・電子回路製造業」がそれぞれ約5%程度で続いている．「情報通信業」のうち2名以上が就職した企業は，ソフトバンク，KDDI，NTTドコモ，ファーウェイ，サイバーエージェント，楽天，富士通，日立，野村総研，福岡放送であった．「その他の専門・技術サービス業」では，三菱総研が2名，その他としてNTTデータ，PwCコンサルティング，バンダイナムコなどであった．「電気・情報通信機械器具製造業」はソニー系に3名，パナソニックに1名などであった．「輸送用機械器具製造業」は，マツダに2名，トヨタ・日産各1名であった．「電子部品・デバイス・電子回路製造業」はソニーセミコン，シャープセミコンなどであった．（※産業種別は，個々の学生の判断による．）

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	九州大学

２.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

ｉ） 学生募集停止中の大学

該当無し	■ チェック

ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	■ チェック

ⅲ） 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	■ チェック

ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	■ チェック

ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	■ チェック

３.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。	確認を受けている	■ チェック
		対象に該当しない	□ チェック
②	志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。	計画通りに進んでいる	■ チェック
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）	計画通りに進んでいる	■ チェック
④	特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。	計画通りに進んでいる	■ チェック
⑤	計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。	計画通りに進んでいる	■ チェック
⑥	特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む。）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む。）を含む。）（以下「研究科等の設置等」という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。	計画通りに進んでいる	■ チェック
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。	計画通りに進んでいる	■ チェック
⑧	教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特例枠）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）	既設の情報系分野に係る研究科等を有する	■ チェック
⑨	機構による事業計画の選定があった日から２年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。	計画通りに進んでいる	■ チェック
⑩	計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）５名以上の入学定員の増員を行う計画であること。	計画通りに進んでいる	■ チェック
⑪	国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第５期中期目標期間終了時までに他学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。	計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない	■ チェック
⑫	教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画になっていること。	計画通りに進んでいる	■ チェック
⑬	文部科学省が実施する数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。	認定を受けている、又は対象に該当しない	■ チェック
		認定を受ける計画が進んでいる	□ チェック
⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない	□ チェック

国際卓越研究大学として認定は受けておらず、申請については検討中である。

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	九州大学

４－１.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れ計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学では，指定国立大学採択に伴いVISION2030を策定した．その一つは「社会共創」であり，自治体や企業等との全学的な連携拡充を謳っている．一方，情報教育の場においては，すでに多方面において産学官連携教育を実施しており，本事業でも継続する．例えば，①データサイエンス・AI教育については，ADS育成室や数理・データサイエンス教育研究センターにおいて九州経済産業局やふくおかアイストをリエゾンとして企業連携教育を実施もしくは計画，②セキュリティー教育については，EnPiT-Proにおいて講義担当など様々な形で実務家教員がダイレクトに関与，③半導体教育については，新設の価値創造型半導体人材育成センターにおいて実務家教員による講義を計画，が挙げられる．これら以外にも，④大学院（修士・博士共に）で企業インターンシップを単位化，⑤企業データ分析講座（電通，トライアル），⑥自治体や企業等との連携が多い卓越大学院「マス・フォア・イノベーション連係学府」への参画，⑦共同研究（シス情全体でR4年度は82件）と受託研究（同68件）を通した実践的教育，を実施している．	①データサイエンス・AI教育について，ADS育成室は，文部科学省の支援終了後も自助努力により継続しており，社会人向けDS講義を開講し，リスキリングの機会を与える．次に、R6年度も引き続き九州経済産業局との「持続可能な産学連携教育」を進めた．この中で産学それぞれが提供可能な実務家教員・リスキリング教育を共有するプラットフォームの試作を終え，R7年度から九州経済産業局の支援を受けて本格活用の予定である．②EnPiT-Proにおけるセキュリティー教育では，講義担当など様々な形で実務家教員が引き続き関与している。③半導体教育については，価値創造型半導体人材育成センター教員を中心として，実務家教員による講義ならびにアドバンスソフト株式会社の協力による「プロセス・デバイスシミュレーションソフト実習講座」の実施，JASM/TSMC-JDCの研究者・技術者による講義（大学院生43名が単位修得）および米国Rochester Institute of Technology，Global Foundry，IBM等への学生研修派遣（5名参加），米国Micron本社・Boise州立大学への学生研修派遣（4名参加）を行った．④⑤⑥については継続．⑦共同研究（シス情全体で82件，前年度より7件，22百万円増 ）と受託研究（シス情全体で58件）を通した実践的教育を実施しており，堅調である．	

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
システム情報科学研究院では，初等中等教育との連携も各種実施しており，本事業でも推進する．最も歴史あるものが「中学生の科学実験教室」である．KDDI財団のご支援の下で20年以上実施しており，毎年100人の定員がすぐに埋まる人気イベントとなっている．高校生については，SSH（スーパーサイエンスハイルクール）事業等での出前講義に加え，H30からは未来創成科学者育成プロジェクト（QFC-SP）を開始した．本学の講義を受講した後，個別指導のもとで各種研究を実施するイベントであり，本研究院の複数教員も受講生の受け入れを行っている．R4は志願者350名のうち72名を採択，そこからの個別指導採択者28名のうち3名が本研究院にて研究指導を受けた． 高校における情報必修化については高大連携での議論を開始しており，現時点では本学のラーニングアナリティクスセンターを介して，近隣公立高校7-8校との情報交換を行っている．今後本事業では，本学の未来人材育成機構(R5発足)での議論や，数理・データサイエンス教育センターが拠点校を務める九州・沖縄ブロックの大学・高専の議論なども通して，連携の実効化を図る．	「中学生の科学実験教室」についてはR6年度も予定通り実施し，90名（男子55名，女子35名）が参加した．高校生については，出前講義等の個別対応，および未来創成科学者育成プロジェクト（QFC-SP）を実施した．QFC-SPについて，R6年度は146名を採択し，このうち31名が「エネルギーと情報」コースに所属した．また、文科省高等教育局専門教育課との相談の上，県内のDXハイスクール校の支援の準備を始めた．具体的には，R6年度に県内大学と県内DXハイスクール校の交流イベントを設計し，参加校を募っている．実施はR7年5月30日であり，本報告書作成時点で高校11校、大学10校が参加希望である．	

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
以下の取り組みを継続する．まず女子学生確保について，①女子高生を対象とした研究体験プログラム（QURIESプログラム，上記QFC-SPとは別で，シス情では毎年4名程度の生徒を受け入れ），②リケジョ講演会，③Voice of Women in Engineeringを毎年発行・配布，など高校時代からの誘導を図る．社会人学生確保については，④ADS育成室における社会人向け「データサイエンスプロ短期集中コース」（R5からはオンデマンド配信を予定），⑤EnPiT−Proでの社会人向けリスキリング講座，⑥社会人学生の参画を容易にするための「長期履修制度」（授業料はそのままで通常よりも在学期間を延長できる制度）を活用する．さらに留学生確保については，⑦大学院グローバルコース（英語による講義・指導で修了可能），⑧海外オフィス（欧米アジア計7か国）＆ブランチオフィス（アジア＆トルコ計4か国）での勧誘活動，⑨リクルーティング活動（オンラインウェビナー or 現地で開催．他大学との合同を含め，R4実績で32回開催，アジア・アフリカが主たる対象），などを活用する．	①女子高生を対象とした研究体験プログラム（QURIESプログラム）では，全学で36名を受け入れ，システム情報科学府では5研究室が受入れ表明し，8名が配属されてプログラムを受講した．これは前年度の3研究室2名から大きく増加した．②リケジョ講演会は，R6.8のオープンキャンパス時に「理系女子のためのキャリアパス講演会」というタイトルで実施し，東芝エネルギーシステムズ株式会社と旭化成ファーマ株式会社から講師を招きご講演いただいた．③Voice of Women in Engineeringは，2024年度版を発行した．この他，旧帝大＋東京科学大８大学の情報系研究科等共同で中高生向けイベント「情報学for all by all」を幹事校として実施し，本学でも19名（すべて女子中高生）を対象に女性教員によるキャリアパスの説明や女子学生等との懇談を行った．社会人学生確保の④⑤⑥は継続実施（④⑤については4-1-①も参照のこと）．留学生確保に関する⑦⑧⑨も継続実施中．⑦について，R6年度の実績は1名であった．なお，システム情報科学府の情報理工学専攻修士学生については，R7年度入学生162名のうち69名が留学生であり，十分に確保できていると言える．実際，R6年度に実施した修士課程入試における外国人留学生の志願者は317名であり，これだけで定員105名を大きく超える．⑨令和６年度は留学生を対象としたリクルーティング活動を20回開催．JASSO主催のオンライン留学フェア等大規模なものも含むが、延べ参加人数は2800人を数える。	

④ 他の大学（外国大学を含む。）・高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
R5年3月，本学は「九州・沖縄地区オープンユニバーシティ（KOOU）」を提唱，九州沖縄の11国立大学の間で研究力向上のための連携推進を決定し，本事業期間には教育に関する連携強化も図る．加えて，本学の数理・データサイエンス教育研究センターでは，九州沖縄ブロックの拠点校として国公立に多数の私学・高専も加えたデータサイエンスAI関連教育連携体制（39校）をすでに築いている．またADS育成室や価値創造型半導体人材育成センターでは，熊本大・九工大と合同での教育プログラムを構築している．半導体については，台湾の工業技術研究院と陽明交通大に本学大学院生を派遣するプログラムをR5より実施予定である． システム情報科学府の博士課程では，国際インターンシップを単位化しており，渡航助成金を支給してその活性化を図っている．同制度の実施開始以来，毎年平均4人の博士学生が助成金を得て，海外トップレベル大学にてインターンを実施している．こうした国際連携教育は，全学レベルの交流協定校に加え，同学府独自の交流協定校（17カ国，32大学）によっても支えられている．	本学の数理・データサイエンス教育研究センターが拠点を務める「数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム九州沖縄ブロック」の会議を2回実施し，初回は30大学・高専・高校と8産業機関が，2回目は33大学等と4産業機関が出席し，産学連携や，情報教育における高校の状況確認と高校との連携方法，生成AIの講義活用など多彩な内容を議論した．ADS育成室については①にて既に述べたとおりの状況である．価値創造型半導体人材育成センターでは，R6年度の台湾TSMCサマーインターンシッププログラムに3名の学生を送り出した．また，米国Rochester Institute of Technology，Global Foundry，IBM等への5名の学生を，米国Micron本社・Boise州立大学への学生研修派遣に4名の学生を派遣した．また、システム情報科学府の博士学生から5名が海外インターンシップに参加しており、オランダ、スペイン、台湾（２名）、中国にそれぞれ派遣している．	

４－２.審査要項における確認項目（３つの取組、６つの観点）の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れ申請時の計画を記載してください（３つの取組のみ計画の記載は不要です）。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

＜３つの取組＞

- ■ チェック [１]海外のトップ大学と連携するなどして、デジタル分野の第一人者として国際的に活躍できる世界トップレベルの研究者や技術者の輩出を図る取組となっているか。
- ■ チェック [２]デジタル人材の不足を解消するために、自大学の教育の高度化や定員の大幅な拡充を図るのみならず、他の大学・高等専門学校の学生も広く参加可能な優れた情報教育プログラムを横展開させる取組となっているか。
- ■ チェック [３]地域や国の産業戦略とも連携しながら、企業等の具体的な実務課題の解決に取組むことで企業等のニーズを踏まえた高度情報専門人材を継続的に多数輩出することにより、地域や我が国の産業振興に大きく資する取組となっているか。

取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
取組[1]については，研究大学として、世界トップレベルの研究に携わった大学院生を輩出している．実際，SciVal等で論文数（全体論文数，トップ10%引用論文数など。これら論文の大半は大学院生の研究成果に関する）を調査すればわかるように，情報系分野における研究力は近隣の他大学を大きく凌駕している．なお，情報理工学専攻の担当教員には，若手研究者を積極的に採用している．その結果，同専攻のカリキュラムにより，最新の情報学が学べるようになっている． 取組[2]の情報学副専攻については，R6年度中に「情報系副専攻WG」で制度設計を行い実施科目も確定して学内で了承を得た．R5年度に完了したコア科目担当教員に加えて分野別応用科目担当教員5名もR7年4月1日までに配置が完了した．これらの教員はX情報学（Ｘ＝化学，物理，生命，人文，社会）を教える．また本プログラム修了者に与えるオープンバッジの先行的発行も開始した．自大学において「あらゆる学術分野において，情報系の素養を持った専門家を輩出する」ことを目的とした「情報系副専攻」をR7年度から開始するために，そのカリキュラム設計を終了し，また担当する教員配置についても，R7年4までに終了している．他大学への横展開（オープン化）については，本学も重要視しているところであり，以下，4-2-⑥にて述べるように，順調に進捗している． 取組[3]については，以下4-2-②③⑤で述べるように，共同研究，実務家教員派遣，インターンシップなど，企業とは様々なレベルで連携している．また，上記「情報系副専攻」のゴールは，まさに「企業等のニーズを踏まえた高度情報専門人材を継続的に多数輩出」である．情報系理工学専攻だけで全産業分野からの人材ニーズを賄うことが現実的でない以上，「あらゆる学術分野において，情報系の素養を持った専門家を輩出する」ことこそが最適なアプローチであると考えている．こうした全分野における情報系教育の横展開は，本学においてもすでに様々な実績があり，今回の「情報系副専攻」は，ある意味それらの集大成的なものとも言える．その進捗に関して，特段の懸念事項はない（本部執行部も学内各部局も極めて前向きに捉えている．）	

＜６つの観点＞

① 大学院博士課程を含め、情報系分野の大学院において、大規模な定員増を実施する計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本事業では，九州大学大学院システム情報科学府情報理工学専攻の博士前期課程（以下，修士課程）を30名増員し，博士後期課程（以下，博士課程）を5名増員する．修士課程については，もともと85名定員であったものを，R3年度改組の際に20名増員して105名定員としたばかりであり，これを今回30名増員することで，135名定員とすることになる．すなわち，修士定員をわずか5年間で1.6倍にする計画となっており，極めて大規模な定員増であるといえる．博士課程についても，現在の定員29名の約12%増となる34名とする． システム情報科学府情報理工学専攻は，情報アーキテクチャ・セキュリティコース，データサイエンスコース，AI・ロボティクスコースで構成され，情報学の基礎理論から応用まで学ぶことができる．（なおコースは修了時に決定すればよく，履修時にはコースにとらわれない幅広い学びが可能である．）さらに同学府内の電気電子工学専攻の講義も履修でき，米国MIT同様，ソフトとハードの両面を学ぶことができる．	九州大学大学院システム情報科学府情報理工学専攻の修士課程を30名増員する計画が承認され，新定員（135名）に基づいて入試を実施し，R7年度については162名が入学した．カリキュラムについて，R6年度中に大きな変更はなかった．なお，博士課程の定員増（29名→34名）は，R9年度であるため，R8年度中に概算要求する予定である．	

② 広く企業や自治体等と連携し、企業や自治体等が求める人材ニーズに的確に応える計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学が指定国立大学採択に伴い今後の方向性を制定したVISION2030の8項目のうちの1つは「社会共創」である．そこでは「知の拠点として地域社会やグローバル社会と共生・共創し，研究教育活動を通して社会の持続可能な発展と人々のウェルビーイングの向上に貢献する」として自治体や企業等との連携拡充を謳っている．これらに先駆け，情報教育の場においては，データサイエンス・AI教育，セキュリティー教育，半導体教育など，多方面において産学官連携教育を実施しており，本事業でも継続する． 博士学生については，R5年4月に「未来人材育成機構」を発足，情報系も含めた全学博士に対して，実務家教員も活用しつつ様々なキャリア支援を行う予定である．これに加え，システム情報科学府では独自に博士のメンター教員（企業経験者）を配置して，キャリア支援を行っている．	本様式4-1-①で述べた通り，データサイエンス・AI教育，セキュリティー教育，半導体教育など，情報学関連について多方面の産学官連携教育を実施した．エキスパート人材として輩出ニーズが高い「数理・DS・AI」博士学生については，R6年度中も手厚い経済的支援を行っている．なお，本学は「JST 次世代研究者挑戦的研究プログラム（JST K-SPRING）」および「文部科学省 科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」にR3年度に採択されており，これら事業は数理・DS・AI人材の育成を後押しでき，特に後者では情報系博士学生を中心に支援できた．両事業はR6年度より新たにJST-SPRINGという形で統合されることになったが，これについても本学は採択されている（新たな事業名称はK2-SPRING）．また，R6年4月1日に採択されたAI系に特化した博士支援制度「次世代AI人材育成プログラム(JST-BOOST)」では，35名（30名の修士学生予約採用を含む）の学生を採用した．本プログラムにおいても企業の研究所長やマネージャークラスによるセミナーやパネルディスカッションを開催している．	

③ 連携企業等からの寄附等、外部資金の持続的な獲得が見込める計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
上記VISION2030には，8項目の1つとして「財務基盤」の強化も謳われている．全学において，多様かつ安定的な財源確保と運用を行うことの宣言であり，具体的には「組織対応型連携の強化による外部資金の拡大」「大学発ベンチャーの創出加速による知財収入等の拡大」「国内外の同窓会組織など、多様なステークホルダーとの連携強化による寄附金収入の拡大」を掲げている． 情報理工学専攻を担当するシステム情報科学研究院の教員（教授44名，准教授36名，助教39名）も，外部資金獲得には非常に積極的である．例えば，R4とR5の2年間だけで，3件の科研費基盤S代表課題が採択されている．（現教授の約16%にあたる7名が基盤S代表経験を持つ．）科研費全体（継続課題含む）では，R4の採択が93件（直接経費391百万円）に上っている．他にもムーンショットやCREST代表課題に加えて，若手向け外部的資金JST-ACT-I/ACT-Xの情報系4領域においての採択実績が多数ある．また，R4の共同研究契約は82件，受託研究契約68件に上る．	R5年度に設けられた使途特定プロジェクト寄附金「価値創造型半導体スペシャリスト育成プロジェクト」に昨今AI事業に力を入れている東京エレクトロン社からの24百万円を含む合計38百万円の寄附を受けた． システム情報科学研究院の科研費採択状況も堅調である．科研費基盤S代表課題3件，学術変革領域研究（A)領域代表1件が実施されている．科研費全体（継続課題含む）では，R6年度の採択が98件であり前年度よりも10件増加している．他にもERATO新規採択に加えて，若手向け競争的資金JST-ACT-Xに6件が新規で採択された。このように、教員が様々な情報系の研究領域において活動の幅を広げている．また，R6年度の共同研究契約は82件（うち組織連携型14件），受託研究契約58件に上る．なお，組織連携型の14件のうち12件は情報系企業である．（金額で言えば，組織連携型共同研究費の総額30百万円のうち，24百万円分が情報系企業からのものであった.）	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	九州大学

④　高度情報専門人材を育成する大学・高等専門学校において質の高い教育を行う教員を養成・輩出する取組（当該分野の大学教員等の育成）を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
過去5年分の統計によれば，情報系の日本人博士修了生のうち，全体の37%（社会人博士を除けば全体の約50%）が大学等アカデミアに就職している（残りは企業就職）．このように本学では着実に情報学エキスパートを輩出してきた．本事業による情報系大学院増員により，アカデミア人材輩出機能がさらに強化される． 本計画では，情報系副専攻を開設し，文系・理系を問わずすべての学生に対する情報系教育を強化することで，こうした情報学の素養を持った人材を全学術分野において輩出する．情報系副専攻は学部を基本とするが，リスキリングを希望する大学院生の参加も大歓迎する．彼らは自身の研究分野に情報系技術を活かせるエキスパートになるため，修了後に自分野教員に着任することで各分野において情報人材育成に寄与することになる．本学では「オープンサイエンス & オープンエデュケーション with オープンマインド」のスローガンの下， 6年前より数理・データサイエンス教育研究センターを中心として，全学体制でデータサイエンス・AI教育に当たってきた．この全学協力体制や教育ノウハウを，今回の情報系副専攻においても十分に活かす．	R6年度末の情報理工学専攻博士課程修了生23名のうち，7名がアカデミアに就職している．残り（社会人博士も含む）は企業研究所等に所属しており，適度なバランスであると言える．また，R6年度末での同専攻修士課程修了生131名のうち，前年度の1.7倍の19名が博士課程へ進学（内部進学）しており，今後の教員候補生になると期待される． 全学全分野において情報系の素養を持った博士学生を輩出するための「情報系副専攻」については，R7年度からの本格稼働に向けて，R6年度中に文理を含む多くの分野の教員からなる「情報系副専攻WG」で制度設計を行い，実施科目も確定して学内で了承を得た．R5年度に完了したコア科目担当教員に加えて分野別応用科目担当教員5名もR7年4月1日までに配置が完了した．これらの教員はX情報学（Ｘ＝化学，物理，生命，人文，社会）を教える．また本プログラム修了者に与えるオープンバッジの先行的発行も開始した．	

⑤　連携企業等から実務経験のある人材の大学への派遣、学生が連携企業等においてインターンシップを実施する体制の構築、連携企業等との共同研究実施が見込める計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
情報理工学専攻においては，産業界からの実務家教員による講義が，すでに複数実施されている．具体的には，毎年10名を超える実務家教員が講義を担当し，ソフト・ハード両面における産業動向に関する最新状況を教授している．またこれとは別に，九州経済産業局やふくおかアイスト（福岡県産業・科学技術振興財団）など，産業界とのリエゾンと連携した教育事業を行っており，例えばADS(Advanced Data Scientist)育成室では，様々な企業の実データを用いたエキスパート教育を展開している．なお，システム情報科学研究院の教授陣には元々企業に所属していた者が多い．特に情報知能工学部門では，21名の教授・准教授のうち半数の11名が企業出身者であり，デジタル技術の社会応用も踏まえた教育研究を実施している． 本計画では，こうした産業界との連携をさらに強化する予定である．例えばデータサイエンス・AI教育については，現在九州経済産業局との協力を深めており，まずは「企業からの教材提供」といった連携を予定している．また，今年度から強化を図る半導体教育においても，世界的な激流の中にある半導体産業の動向を学べる「半導体技術マーケティング特論」を実務家教員が担当する予定である．博士のインターンシップについても前述の未来人材育成機構による推進や，半導体企業への国際インターンシップ(R5.5プレスリリース済)も予定されている．	4-1-①で回答したように，EnPiT-Proにおけるセキュリティー教育や，価値創造型半導体人材育成センターにおける半導体教育において，実務家教員による講義が積極的に導入されている．また，数理・データサイエンス教育研究センターにおいては、九州経済産業局との「持続可能な産学連携教育」を進めた．この中で産学それぞれが提供可能な実務家教員・リスキリング教育を共有するプラットフォームの試作を終え，利用を開始した． 学生のインターンシップについて，2週間以上実施するものについては，博士・修士ともに単位化（2単位）している．なお，博士学生については，4週間以上の場合は「長期インターンシップ」として4単位の取得が可能である．半導体関係のインターンシップも計画通り実施を開始している．なお，昨今の就活前倒し（特に情報系は修士1年進学後直後に就活を開始）の傾向もあり，教員側の主導がなくても，多くの学生がインターンシップに参加している． 共同研究についても，4-1-①で回答した通り堅調である． 情報理工学専攻担当の教授・准教授のうち，文部科学省が定義する実務家教員「専攻分野における概ね5年以上の実務の経験を有し」に従って，改めて「企業経験教員」をカウントしたところ，7名であった．（5年未満の民間企業在職者を加えれば，さらに7名となる．）	

⑥　他大学等の学生も参加できる情報教育プログラムの実施や教材作成等を含む質の高い取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学では「情報系教育のオープン化」を推進しており，本事業でもそれを強化する．前述の通り，本学のデータサイエンス・AI教材についてはSNSでも度々話題になるほどで，自由にダウンロードできるPDF形式の資料だけでなく，改変可能なパワーポイント形式の資料も無償配布している．こうした教材のオープン化については今後も積極的に推進する．データサイエンス講義については，録画済み動画だけでなく，他大学へのオンライン講義配信も検討する．また，データサイエンス(ADS育成室)，サイバーセキュリティ(EnPiT Pro)，半導体(価値創造型半導体人材育成センター，R5発足)で実施している大学間連携教育についても継続的に推進するとともに，それら教材もできるかぎり公開することで，情報学教育のオープン化・共有化を実現していく計画となっている．	教材のオープン化については，引き続き積極的に進めており，35単元のスライド教材に関するPDFについては常時無許可でダウンロード可能，自由に編集・改変可能なパワーポイントファイルについてはメールにて問い合わせいただければ無償配布としている．後者については，R6年度中に43の大学・企業等に配布している．またR6年度末までの累積配布先数は186である． データサイエンス(ADS育成室)，サイバーセキュリティ(EnPiT Pro)，半導体(価値創造型半導体人材育成センター，R5発足)で実施している大学間連携教育についても継続的に推進している． なお，R7年度より本格開始する情報系副専攻科目の講義資料の一部オープン化についても，今後検討を開始する．	

５－１.大学院（修士課程、博士課程）における学生の研究活動実績

令和6年度 大学院在籍学生の論文の採択・受賞状況や各コンペティション等の受賞状況、筆頭著者論文数等、学生の研究活動実績を記載してください。

令和6年度に，情報理工学担当教員の原著論文(九大の業績データベース調べ，査読付き国際会議論文を含む)の総数は253編であった．分野によっては著者がアルファベット順であったり，また在学時に執筆して修了後に発行された論文などもあるため，学生が筆頭著者である数値を出すのは困難であるが，学生が著者となっている論文は多いと考えられる．受賞も，R6年度修了の情報理工学専攻の大学院生だけで61件の受賞があった．

５－２.大学院（修士課程、博士課程）における学生の卒業後の進路状況

令和6年度 大学院卒業者の卒業後の進路状況を記載してください。就職先企業名や研究機関名、業種、職種、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。

4-2-④でも述べた通り，R6年度末の情報理工学専攻「博士課程」修了生23名のうち，7名がアカデミアに就職している．残りは国立研究開発法人情報通信研究機構や企業研究所などに就職している．
R6年度末での同専攻「修士課程」修了生131名のうち，19名が博士後期課程へ進学（内部進学）している．企業就職者の産業種別内訳（※）は，「情報通信業」が57%であり，次いで「その他の専門・技術サービス業」が17%，「卸売業」「はん用・生産用・業務用機械器具製造業」「電子部品・デバイス・電子回路製造業」がぞれぞれ5%前後で続いている「情報通信業」のうち2名以上が就職した企業は，NTTドコモ，アイ・システム，野村総研，NTTデータ，日鉄ソリューションズ，富士通，富士通Japanであった．「その他の専門・技術サービス業」では，アクセンチュアが5名，その他としてLINEヤフー，サイバーエージェント，ベイカレントなどであった．「卸売業」では東京エレクトロンに2名など，「はん用・生産用・業務用機械器具製造業」ではリコー，三菱重工など，また「電子部品・デバイス・電子回路製造業」ではロームなどに就職している．（※産業種別は，個々の学生の判断による．）

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	九州大学

指摘事項等に対する対応状況を記載してください。

区分	指摘事項等	対応状況
選定時留意事項（R5年度）	高度情報専門人材をどう考え「オープン化」がその育成にどうつながるのかを示し、世界トップレベル人材育成や産業振興に至る筋道を明確にした上で、事業に取り組むことが求められる。	高度情報専門人材とは，第一義的には「情報系の大学院から輩出される」人材である．しかし，その人材だけで，全産業分野で必要とされている人材の量を賄うのは，明らかに非現実的である．そこで，本事業では，第二義的に「情報系以外の学部・学府（研究科）の卒業・修了者であっても，その学部・学府の分野の産業を振興させるに十分なレベルの情報系素養を持った人材」も高度情報専門人材であると考える．このために，R7年度に情報学教育を学内において「オープン化」した「情報系副専攻」を立ち上げ，R5年度はその教育担当人材の選考や，カリキュラム選定を行った．
選定時留意事項（R5年度）	教育・授業コンテンツのデジタル化を通した人材育成に当たっては、さまざまな情報技術等を活用し、スライド中心の教材による知識習得にとどまらない更なる実践的な教育が求められる。	本学は研究大学であり，情報理工学専攻においても，大学院生は世界レベルの研究を遂行してこそ，ようやく修了となる．その意味で，単なる既存スライドを学んだだけで終わるような教育はあり得ず，必要な技術を自ら創造して実装するプロセスを含んだ高度な実践教育が実施される．なお，情報系以外の他部局の学生が「情報系副専攻」を履修する場合も，単なる座学では終わらない．すなわち，「方向性の異なる３つのプログラミング演習」を同副専攻の中心軸として実施する．（メディア解析，ウエブアプリ，IoT志向プログラミングの３つを主題としたプログラミング演習をそれぞれ準備する予定となっている．） 授業の実施方法についても、様々な工夫を行っており、例えば、 ・過去の受講生の質問履歴データを活用した，質問応答チャットボット（生成AI）の導入 ・オンライン議論ツール slack、miro（オンラインホワイトボード）を用いたグループワーク実施 ・プログラミング授業における学生間の遅速差に対応すべく，教授内容の聞き直し可能なYouTube Live配信を利用 など先進的な方法を取り入れている。
選定時留意事項（R5年度）	女子学生獲得の方策を講じることが求められる。	様式2-2-2の第4-1-③項にて述べたように，様々な対策を講じている．特に女子高校生・中学生に対するアプローチを心掛けている．特に他大学と共同で中高生向けイベント「情報学for all by all」を実施し，本学でも17名（うち女子中高生15名）を対象にラボツアーや女子学生等との懇談を行った．R6年度も実施予定である．また，女性教員の増加も，女子学生獲得と親和性が高いと考えており，R6.6着任予定の1名を含めれば，本事業開始後に，情報理工学専攻を担当する2名の女性教員（准教授）を採用している．

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	九州大学

指摘事項等に対する対応状況を記載してください。

区分	指摘事項等	対応状況
選定時留意事項（R5年度）	高度情報専門人材をどう考え「オープン化」がその育成にどうつながるのかを示し、世界トップレベル人材育成や産業振興に至る筋道を明確にした上で、事業に取り組むことが求められる。	高度情報専門人材とは，第一義的には「情報系の大学院から輩出される」人材である．しかし，その人材だけで，全産業分野で必要とされている人材の量を賄うのは，明らかに非現実的である．そこで，本事業では，第二義的に「情報系以外の学部・学府（研究科）の卒業・修了者であっても，その学部・学府の分野の産業を振興させるに十分なレベルの情報系素養を持った人材」も高度情報専門人材であると考える．このために，R7年度に情報学教育を学内において「オープン化」した「情報系副専攻」を立ち上げ，R6年度はその教育担当人材の選考や，カリキュラム選定を行い，R7年度に大学として正式に開始した．
選定時留意事項（R5年度）	教育・授業コンテンツのデジタル化を通した人材育成に当たっては、さまざまな情報技術等を活用し、スライド中心の教材による知識習得にとどまらない更なる実践的な教育が求められる。	本学は研究大学であり，情報理工学専攻においても，大学院生は世界レベルの研究を遂行してこそ，ようやく修了となる．その意味で，単なる既存スライドを学んだだけで終わるような教育はあり得ず，必要な技術を自ら創造して実装するプロセスを含んだ高度な実践教育が実施される．なお，情報系以外の他部局の学生が「情報系副専攻」を履修する場合も，単なる座学では終わらない．すなわち，「方向性の異なる３つのプログラミング演習」を同副専攻の中心軸として実施する．（メディア解析，ウエブアプリ，IoT志向プログラミングの３つを主題としたプログラミング演習をそれぞれ準備する予定となっている．） 授業の実施方法についても、様々な工夫を行っており、例えば、 ・過去の受講生の質問履歴データを活用した，質問応答チャットボット（生成AI）の導入 ・オンライン議論ツール slack、miro（オンラインホワイトボード）を用いたグループワーク実施 ・プログラミング授業における学生間の遅速差に対応すべく，教授内容の聞き直し可能なYouTube Live配信を行い、その後、録画したものを公開することで教授内容の聞き直しを可能にするなど、先進的な方法を取り入れている。
選定時留意事項（R5年度）	女子学生獲得の方策を講じることが求められる。	様式2-2-2の第4-1-③項にて述べたように，様々な対策を講じている．特に女子高校生・中学生に対するアプローチを心掛けている．特に他大学と共同で中高生向けイベント「情報学for all by all」を幹事校として実施し，本学でも19名（すべて女子中高生）を対象に女性教員によるキャリアパスの説明や女子学生等との懇談を行った．また，女性教員の増加も，女子学生獲得と親和性が高いと考えており，本事業開始後に情報理工学専攻を担当する２名の女性教員（准教授）を採用し、引き続き、女性限定の助教公募などを行っている。

大学名	九州大学	改組内容	研究科等の設置･増員（ハイレベル枠）

１.本事業対象となる情報系組織の状況

１－１.博士課程

<合計>

大区分	小区分	年度 項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	29	29	29	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数	人	22	21	27	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		女子学生数	人	3	4	5	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		社会人学生数	人	4	1	1	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		留学生数	人	15	19	15	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
	その他の学期	入学定員	人	0	0	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数	人	8	14	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		女子学生数	人	1	3	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		社会人学生数	人	2	3	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		留学生数	人	6	12	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
	入学者合計	入学定員（A）	人	29	29	29	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
		入学者数（B）	人	30	35	27	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
		女子学生数	人	4	7	5	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
		社会人学生数	人	6	4	1	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
		留学生数	人	21	31	15	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.03	1.21	0.93	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
	収容定員等	収容定員（C）	人	87	87	87	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		在籍者数（D）	人	88	100	107	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.01	1.15	1.23	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	6	29	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
		就職者数	人	6	17	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		進学者数	人	0	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		その他	人	0	12	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		進路不明	人	0	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
	大学院博士課程	満期退学者数	人	2	4	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		学位取得者数	人	6	15	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	16	15	14	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		授業科目の単位数	単位	66	61	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE

大学名	九州大学	改組内容	研究科等の設置･増員（ハイレベル枠）

１－２.修士課程

＜合計＞

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	105	105	135	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数	人	133	120	162	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		女子学生数	人	9	9	15	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		社会人学生数	人	0	0	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		留学生数	人	39	48	69	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
	その他の学期	入学定員	人	0	0	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数	人	3	1	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		女子学生数	人	1	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		社会人学生数	人	0	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		留学生数	人	3	1	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
	入学者合計	入学定員（A）	人	105	105	135	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
		入学者数（B）	人	136	121	162	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
		女子学生数	人	10	9	15	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
		社会人学生数	人	0	0	0	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
		留学生数	人	42	49	69	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.30	1.15	1.20	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
	収容定員等	収容定員（C）	人	210	210	240	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		在籍者数（D）	人	248	268	291	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.18	1.28	1.21	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	98	131	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
		就職者数	人	85	100	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		進学者数	人	11	19	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		その他	人	2	12	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		進路不明	人	0	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	24	15	14	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		授業科目の単位数	単位	39	25	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE

大学名	九州大学	改組内容	研究科等の設置･増員（ハイレベル枠）

本事業対象となる研究科等の個数	1

１.本事業対象となる情報系組織の状況

１－１.博士課程

<内訳>

(1)

改組組織名	システム情報科学府情報理工学専攻

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
		年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
		改組状況		選定																		
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	29	29	29																
		入学者数	人	22	21	27																
		女子学生数	人	3	4	5																
		社会人学生数	人	4	1	1																
		留学生数	人	15	19	15																
	その他の学期	入学定員	人	0	0	0																
		入学者数	人	8	14																	
		女子学生数	人	1	3																	
		社会人学生数	人	2	3																	
		留学生数	人	6	12																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	29	29	29	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)	人	30	35	27	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		女子学生数	人	4	7	5	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		社会人学生数	人	6	4	1	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		留学生数	人	21	31	15	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.03	1.21	0.93	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
	収容定員等	収容定員(C)	人	87	87	87																
		在籍者数(D)	人	88	100	107																
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.01	1.15	1.23	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	6	29	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
		就職者数	人	6	17																	
		進学者数	人	0	0																	
		その他	人	0	12																	
		進路不明	人	0	0																	
	大学院博士課程	満期退学者数	人	2	4																	
		学位取得者数	人	6	15																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	16	15	14																
		授業科目の単位数	単位	66	61																	

大学名	九州大学	改組内容	研究科等の設置・増員（ハイレベル枠）

本事業対象となる研究科等の個数	1

１.本事業対象となる情報系組織の状況

１－２.修士課程

<内訳>

(1)

改組組織名	システム情報科学府情報理工学専攻

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
		年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
		改組状況		選定	届出	増員	完成年度															
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	105	105	135																
		入学者数	人	133	120	162																
		女子学生数	人	9	9	15																
		社会人学生数	人	0	0	0																
		留学生数	人	39	48	69																
	その他の学期	入学定員	人	0	0	0																
		入学者数	人	3	1																	
		女子学生数	人	1	0																	
		社会人学生数	人	0	0																	
		留学生数	人	3	1																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	105	105	135	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数(B)	人	136	121	162	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		女子学生数	人	10	9	15	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		社会人学生数	人	0	0	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		留学生数	人	42	49	69	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.30	1.15	1.20	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
	収容定員等	収容定員(C)	人	210	210	240																
		在籍者数(D)	人	248	268	291																
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.18	1.28	1.21	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	98	131	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
		就職者数	人	85	100																	
		進学者数	人	11	19																	
		その他	人	2	12																	
		進路不明	人	0	0																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	24	15	14																
		授業科目の単位数	単位	39	25																	

大学名	九州大学	改組内容	研究科等の設置・増員（ハイレベル枠）

２.情報系組織の状況

２－１.博士課程

大区分	小区分	項目	単位	R5年度 選定	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	45	45	45																
		入学者数	人	32	32	31																
		女子学生数	人	5	4	5																
		社会人学生数	人	9	3	1																
		留学生数	人	21	25	17																
	その他の学期	入学定員	人	0	0	0																
		入学者数	人	14	15																	
		女子学生数	人	2	3																	
		社会人学生数	人	5	3																	
		留学生数	人	9	13																	
	入学者合計	入学定員（A）	人	45	45	45	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数（B）	人	46	47	31	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		女子学生数	人	7	7	5	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		社会人学生数	人	14	6	1	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		留学生数	人	30	38	17	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.02	1.04	0.69	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
	収容定員等	収容定員(C)	人	135	135	135																
		在籍者数(D)	人	134	161	148																
		収容定員充足率（D/C）	倍	0.99	1.19	1.10	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	14	50	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
		就職者数	人	13	28																	
		進学者数	人	0	0																	
		その他	人	1	22																	
		進路不明	人	0	0																	
	大学院博士課程	満期退学者数	人	3	7																	
		学位取得者数	人	12	33																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	21	20	23																
		授業科目の単位数	単位	90	85																	

大学名	九州大学	改組内容	研究科等の設置・増員（ハイレベル枠）

２－２.修士課程

大区分	小区分	項目	単位	R5年度 選定	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	170	170	230																
		入学者数	人	212	198	256																
		女子学生数	人	13	11	21																
		社会人学生数	人	0	0	0																
		留学生数	人	58	67	99																
	その他の学期	入学定員	人	0	0	0																
		入学者数	人	8	1																	
		女子学生数	人	1	0																	
		社会人学生数	人	0	0																	
		留学生数	人	8	1																	
	入学者合計	入学定員（A）	人	170	170	230	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数（B）	人	220	199	256	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		女子学生数	人	14	11	21	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		社会人学生数	人	0	0	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		留学生数	人	66	68	99	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.29	1.17	1.11	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
	収容定員等	収容定員(C)	人	340	340	400																
		在籍者数(D)	人	423	441	469																
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.24	1.30	1.17	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	181	219	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
		就職者数	人	156	176																	
		進学者数	人	17	25																	
		その他	人	8	18																	
		進路不明	人	0	0																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	45	20	22																
		授業科目の単位数	単位	77	35																	

大学名	九州大学	改組内容	研究科等の設置・増員（ハイレベル枠）

２－３.学士課程

大区分	小区分	項目	単位	R5年度 選定	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	153	153	153																
		入学者数	人	152	155	152																
		女子学生数	人	14	15	12																
		社会人学生数	人	0	0	0																
		留学生数	人	5	6	4																
	その他の学期	入学定員	人	0	0	0																
		入学者数	人	4	5																	
		女子学生数	人	1	0																	
		社会人学生数	人	0	0																	
		留学生数	人	4	5																	
	入学者合計	入学定員（A）	人	153	153	153	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数（B）	人	156	160	152	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		女子学生数	人	15	15	12	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		社会人学生数	人	0	0	0	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		留学生数	人	9	11	4	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.02	1.05	0.99	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
	収容定員等	収容定員(C)	人	459	612	612																
		編入学定員	人	0	0	0																
		在籍者数(D)	人	697	678	657																
		編入学者数	人	21	17	11																
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.52	1.11	1.07	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
卒業後の状況	卒業者数等	卒業者数	人	158	172	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
		就職者数	人	23	14																	
		進学者数	人	130	153																	
		その他	人	5	5																	
		進路不明	人	0	0																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	31	19	18																
		授業科目の単位数	単位	126	63																	

大学名	九州大学	改組内容	研究科等の設置・増員（ハイレベル枠）

３.大学全体の状況

３－１.博士課程

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	779	779	779																
		入学者数	人	524	589	612																
	その他の学期	入学定員	人	0	0	0																
		入学者数	人	183	180																	
	入学者合計	入学定員（A）	人	779	779	779	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数（B）	人	707	769	612	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	0.91	0.99	0.79	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
	収容定員等	収容定員（C）	人	2,602	2,601	2,600																
		在籍者数（D）	人	2,589	2,722	2,775																
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.00	1.05	1.07	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***

３－２.修士課程

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1,799	1,799	1,859																
		入学者数	人	1,796	1,810	1,872																
	その他の学期	入学定員	人	0	0	0																
		入学者数	人	177	148																	
	入学者合計	入学定員（A）	人	1,799	1,799	1,859	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数（B）	人	1,973	1,958	1,872	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.10	1.09	1.01	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
	収容定員等	収容定員（C）	人	3,602	3,588	3,648																
		在籍者数（D）	人	4,046	4,064	4,060																
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.12	1.13	1.11	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***

大学名	九州大学	改組内容	研究科等の設置・増員（ハイレベル枠）

３－３.学士課程

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	2,549	2,549	2,549																
		入学者数	人	2,612	2,609	2,594																
	その他の学期	入学定員	人	0	0	0																
		入学者数	人	34	43																	
	入学者合計	入学定員（A）	人	2,549	2,549	2,549	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学者数（B）	人	2,646	2,652	2,594	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE	TRUE
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.04	1.04	1.02	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
	収容定員等	収容定員（C）	人	10,659	10,663	10,657																
		編入学定員	人	60	70	70																
		在籍者数（D）	人	11,707	11,710	11,687																
		編入学者数	人	51	74	71																
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.10	1.10	1.10																

４.外部資金の状況（全学）

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
競争的外部資金等の状況	全体	研究者数	人	3431	3515	3497																
		外部資金獲得額	千円	27,972,466	22,172,223	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***	***
	共同研究	実施件数	件	912	956																	
		実施件数（民間企業からのみ）	件	836	877																	
		受入額	千円	3,409,795	3,433,547																	
		受入額（民間企業からのみ）	千円	2,961,388	2,954,934																	
	受託研究	実施件数	件	955	1073																	
		実施件数（民間企業からのみ）	件	175	196																	
		受入額	千円	12,443,414	13,564,201																	
		受入額（民間企業からのみ）	千円	422,178	362,623																	
	寄附金	実施件数	件	7020	6390																	
		実施件数（民間企業からのみ）	件	796	741																	
		受入額	千円	3,245,094	3,513,826																	
		受入額（民間企業からのみ）	千円	1,086,914	1,289,347																	
	その他	受入額（上記に当てはまらないもの）	千円	8,874,163	1,660,649																	

特記事項

その他の学期の入学定員0人とは、定員が若干名であることを意味している。